

# 図書を使って

## 情報を扱う力を育てる教科書

●玉川大学 堀田龍也

私たちは情報社会に暮らしている。テレビのスイッチを入れるといつでも情報が飛び込んでくる。インターネットで調べられることも日常的だ。ケータイでメールを送り合うことは、お互いの人間関係を保つことに役立つている。

「次の世代」の子どもたちは、私たち大人の現在よりも、より多くの情報が、より多方面から降り注ぐ情報社会を生き抜いていくことになる。降り注ぐ情報の中には、整理されていないものもあれば、真偽が怪しいものもあるだろう。これらの情報とつきあっていくことになる子どもたちに、小学生のうちに教えておかなければならないことはなんだろうか。

情報とは、実は「言葉」である。私たちは、言葉で読み取り、言葉で考え、言葉で伝えていく。本に書かれている情報も、ホームページに書かれている情報も、すべて言葉だ。写真や動画は、それ自体は言葉ではないが、そこに描かれている事象を私たちが理解するときには、頭の中で言葉を使っている。日本語なら理解でき

るものが、よその国の言葉では理解できない。

したがって、多くの情報を的確に処理しながら生き抜いていかなければならない次の世代の子どもたちこそ、言葉に親しむことや、言葉を使って考える力がさらに大切になる。

「言葉の力」が今日さらに重視されている理由はここにある。

子どもたちが言葉に出会い、言葉に親しみ、言葉を使って情報を集め、発信すること。この基礎体験は、実は図書館教育にある。

情報の入手や選択を教える際には、まずは情報入手の王道である図書をどうやって選んでいくかから教えることよい。まずはある程度の信頼度が保たれている図書の情報をつかりと読み取ることから始める必要があるからだ。メディアの特性を把握することについては、図書と比較して、ビデオ、インターネットと比較の範囲を広げていけばよい。

調べ方を教える際には、教師が図書を指定することで情報を限定して与えたり、図書を選ぶ

という活動を通して集め方を教えたり、図書の中身を吟味させたりすることで情報を判断する力をつけていくとよい。辞書や図鑑にたくさん触れ、その量感を感じている子どもだからこそ、インターネット上の情報量の多さや、検索の仕組みが理解できるようになる。

人に聞く、図書で調べる、インターネットで検索するなど、さまざまな情報収集の方法があるが、一・二年生にインターネットはまだ早い。この時期には、人に聞くことをしっかりと教える方が先決だ。同時に図書に慣れ親しませる。その後、三・四年生でできるだけ多くの機会に図書館を使って調べる体験をさせ、図書に親しませ、同時にインターネット体験をさせておく。その上で、五・六年生になったらインターネットを道具として使わせるというくらいがちょうどいい。

図書を使ってたくさん調べた経験がある子どもたちなら、調べることの大変さがわかっているから、インターネットの利便さを実感できる。「インターネットと本はどう違います

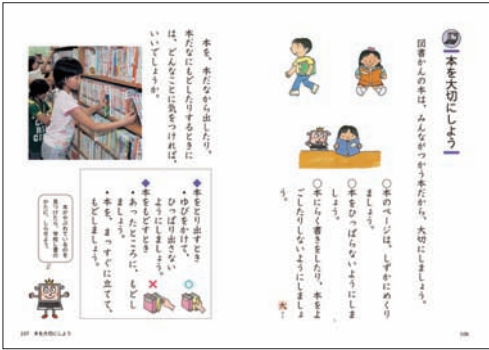


ほりた たつや 玉川大学大学院教育学研究科教授。文部科学省参与を併任。専門は情報教育の授業実践やカリキュラム開発。博士(工学)。

か？」と教師が問いかけてみるとよいだろう。図書を使って調べれば、まとまった情報を手に入れることができる。一方、インターネットを使えば、さまざまな人が発信する情報に目を通したり、最新の情報をチェックしたりすることができる。そういったメディアの特性を理解させることは、図書で調べる体験が多いほど容易になる。その上で、自分が調べている課題に役立つ情報を得るにはどのメディアが適しているのかをきちんと考えさせたり、話し合わせたりすることが大切だ。ホームページに書かれている内容を読み取り、判断する能力も必要になる。調べたらプ

ントアウトして終わりとか、カット&ペーストして終わりになってしまふようなことがあるが、それはインターネットが悪いのではなく指導する教師の問題だ。教師は、ホームページを見つけて終わりにならないよう、プリントアウトしたものに大事なところに線をひかせて、要点をまとめさせるといふように、読み取り方を教える必要がある。図書で調べる時と同じことだ。これは著作権の学習にもつながる。情報社会をしっかりと生き抜く子どもたちを育てるためには、パソコンの操作を覚えさせればよいというわけではない。それよりむしろ、「言葉の力」を充実させることが重要なのだ。

筆者は、三省堂の『小学生の国語』の編集において、図書館・情報系列のカリキュラムを担当した。各学年に四本ずつ登場している。「図書館へ行こう」のように図書館活用を促すページや、情報の分類の仕方などについて体験させるページ、新聞をはじめとする諸メディアの特性を意識したページもある。各学年に系統的に配置することによって、子どもたちに情報社会に対応する力——それは言葉の力そのものであるが——が身につくようになっていく。見開き二ページの中にも情報満載の教材として仕上がっている。ぜひご活用いただければ幸いである。



2年「本を大切にしよう」



3年「図かんでしらべよう」



4年「新聞のくふうを知ろう」



5年「インターネットを使って調べよう」